

第 1 問 (20 点)

1. 京都物産株式会社 (決算年 1 回 3 月 31 日) は、×7 年 3 月 20 日に **15,000 ドルの商品を掛けにて輸入**していたが、本日、×7 年 4 月 15 日に取引銀行を通じて、この代金を普通預金より支払った。1 ドルあたりの為替相場は、**×7 年 3 月 20 日が @¥117、×7 年 3 月 31 日が @¥119、×7 年 4 月 15 日が @¥115** であり、為替予約は行っていない。

売掛金や買掛金は決算時の為替相場に換算替えが必要です。

買掛金の取消し額は  $1,755,000 + 30,000 = 1,785,000$

×7 年 3 月 20 日 @¥117 仕 入 1,755,000 買 掛 金 1,755,000

×7 年 3 月 31 日 @¥119 為替差損益 30,000 買 掛 金 30,000

×7 年 4 月 15 日 @¥115	買 掛 金	1,785,000	当 座 預 金	1,725,000
			為 替 差 損 益	60,000

2. ×7 年 8 月 7 日、東京株式会社が発行する **額面総額 ¥600,000** の社債 (利率年 1.46%、利払日は 3 月および 9 月末日の年 2 回) を **額面 @ ¥100 につき @ ¥99.8** の裸相場で売買目的有価証券として買入れ、代金は直前の利払日の翌日から購入日までの端数利息 (日割計算) とともに小切手を振り出して支払った。1 年を 365 日として計算する。

直前の利払日の翌日から日数を数える。

(西向くサムライ、小の月) 2 月・4 月・6 月・9 月・11 月が 30 日までの月

利息						売買	利息
3 月末	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月末	
	30 日	31 日	30 日	31 日	7 日	= 129 日	

有価証券利息 =  $600,000 \times 1.46\% \times 129 \div 365 = 3,096$

売買目的有価証券	598,800	当 座 預 金	601,896
有 価 証 券 利 息	3,096		

3. **研究開発を行う目的**で、材料 ¥300,000 および機械装置 ¥1,500,000 (**他の目的で使用しない**) を購入し、代金は小切手を振出して支払った。これに伴う支出は、すべて費用として処理する。

「研究開発費」で仕訳します。

研 究 開 発 費	1,800,000	当 座 預 金	1,800,000
-----------	-----------	---------	-----------

4. 当社ではファイナンス・リース取引により機械装置（リース開始日：×7年4月1日、**リース期間：8年**、リース料支払非：3月31日、**年額リース料：¥2,000,000**、**利子込み法にて処理済**）を調達している。×8年3月31日、第1回目のリース料支払いを当座預金から行った。また、決算につき機械装置の減価償却費を**リース期間を耐用年数とする定額法（直接法、残存価額ゼロ）**で計上した。（決算日：3月31日）

利子込み法なので、利息を含んだ年額リース料の2,000,000で計算します。

期間8年ですのでトータルで、 $2,000,000 \times 8 \text{年} = 16,000,000$

リース開始の仕訳	リース資産	16,000,000	リース債務	16,000,000
リース料支払い	リース債務	2,000,000	当座預金	2,000,000
減価償却	減価償却費	2,000,000	リース資産	2,000,000

減価償却はリース資産で計算します。直接法なので、「リース資産」を減らします。

5. 大原株式会社は**備品を¥8,000,000で購入し、代金は翌月に支払う**ことにした。また、この備品について、期首に国から補助金¥3,000,000を受取っていたため、**直接減額方式による圧縮記帳**を併せて行った。

備品	8,000,000	未払金	8,000,000
固定資産圧縮損	3,000,000	備品	3,000,000

第2問 (20点)

商品売買の問題は『商品有高帳』の簡略版を書いて、商品の数と原価を把握します。

外国との取引ですが、商品売買と為替差損益は別々に考えた方がすっきりすると思います。

〈注意事項〉の1「販売のつど売上原価に振り替える」は売上原価対立法を指しています。

仕入れたとき	商	品	/	買	掛	金
売上げたとき	売	掛	金	/	売	上
	売	上	原	価	商	品

〈資料1〉商品売買取引に関する資料から、キーワードで商品売買と為替差損益に分けます。

仕入れ・販売 ➡ 商品売買      為替予約・支払 ➡ 為替差損益

仕入れ・販売に注目して、商品の T 字を埋めていきます。

商品

仕入 (商品の増加)			販売 (商品の減少)		
1/1 前期繰越	3,000 個 @ ¥2,100	6,300,000	2/15 売上原価	1,500 個 ①@ ¥2,125	3,187,500
2/1 買掛金	5,000 個 @20 ドル×107	10,700,000	4/15 売上原価	2,500 個 ①@ ¥2,125	5,312,500
10/15 諸口	5,000 個 5,000×@19 ドル	②10,520,000	6/1 売上原価	2,000 個 ①@ ¥2,125	4,250,000
			11/1 売上原価	2,500 個 ③@ ¥2,110	5,275,000
			12/1 売上原価	2,000 個 ③@ ¥2,110	4,220,000
			12/31 棚卸減耗損	④100 個 ③@ ¥2,110	211,000
			12/31 次期繰越		貸借差額 5,064,000

①  $(6,300,000 + 10,700,000) \div (3,000 + 5,000) = 2,125$

②  $35,000 \text{ドル} \times \text{¥}112 + 60,000 \text{ドル} \times \text{¥}110 = 10,520,000$

③  $(6,300,000 + 10,700,000 + 10,520,000 - 3,187,500 - 5,312,500 - 4,250,000) \div (3,000 + 5,000 + 5,000 - 1,500 - 2,500 - 2,000) = 2,110$

④  $3,000 + 5,000 + 5,000 - 1,500 - 2,500 - 2,000 - 2,500 - 2,000 = \text{帳簿上の在庫 } 2,500 \Leftrightarrow \text{実際の在庫 } 2,400$   
 <資料Ⅱ>実地棚卸数量

為替予約・支払に注目して、買掛金の T 字の左側 (買掛金減少) を埋めていきます。

右側は (買掛金増加) ですので「商品」の T 字に対応しています。

買掛金

支払・為替予約 (買掛金減少)			購入 (買掛金増加)		
2/28 当座預金	20,000ドル×¥106	2,120,000	1/1 前期繰越	20,000ドル×¥106	2,120,000
3/1 為替差損益	(¥107→¥106) ×5000 個×20ドル	100,000	2/1 商品	5,000 個×@20ドル ×¥107	10,700,000
4/30 当座預金	¥106×5000 個 ×20ドル	10,600,000	10/15 商品	60,000ドル×¥110	6,600,000
12/31 次期繰越	次期繰越	6,780,000	12/31 為替差損益	(¥110→¥113) ×60,000ドル	180,000
	差額で計算	19,600,000	←		19,600,000

買掛金の T 字とのつながりに注目して、為替差損益の T 字を埋めていきます。

為替差損益

損（買掛金が増えた）			益（買掛金が減った）		
2/28 当座預金	¥106→108 ×20,000ドル	40,000	3/1 買掛金	(¥107→¥106) ×5000 個×20ドル	100,000
12/31 買掛金	(¥110→¥113) ×60,000ドル	180,000	12/31 損益		貸借差額 120,000

第3問 (20点)

[資料Ⅱ]未処理事項

1. 保有している株式の配当金領収証 ¥123,000 が金庫に保管されていたが未処理であった。

配当金領収証・期限の到来した公社債利札は「現金」で仕訳します。

現金預金	123,000	受取配当金	123,000
------	---------	-------	---------

2. 売掛金のうち ¥20,000 は得意先が倒産したため回収不能となっていたが未処理であった。その内訳は前期発生分が ¥15,000、当期発生分が ¥5,000 である。

残高試算表をみると貸倒引当金が 25,000 あります。前期発生分には貸倒引当金が使えます。

当期発生分には貸倒引当金はい使えません = 貸倒損失

貸倒引当金	15,000	売掛金	20,000
貸倒損失	5,000		

3. 仕入先に対する買掛金 ¥50,000 について ¥1,000 の仕入割引の適用を受け、残額は小切手を振り出して支払っていたが未処理である。

早くお金を払うことで金額が少なくなる。= 得する 「仕入割引」は収益になります。

「仕入割引」は利息の側面をもつことから、『営業外収益』に表示されます。

買掛金	50,000	当座預金	49,000
		仕入割引	1,000

[資料Ⅲ]決算整理事項

1. 売上債権の期末残高に対して 2%(実積率)の貸倒れを見積もる。貸倒引当金の設定は差額補充法による。

[資料Ⅱ] 2 で、売掛金、貸倒引当金ともに減少しているので注意してください。

$$(受取手形 325,000 + 売掛金 315,000 - 20,000) \times 2\% = 12,400 \text{ (必要額)}$$

$$\text{貸倒引当金 } 25,000 - 15,000 = 10,000 \text{ (今の金額)} \quad 12,400 - 10,000 = 2,400 \text{ (繰入額)}$$

貸倒引当金繰入	2,400	貸倒引当金	2,400
---------	-------	-------	-------

2. 商品の期末棚卸高は次のとおりである。なお、棚卸減耗損は独立の科目とし、収益性の低下による評価損は売上原価の内わけ科目として処理する。

帳簿棚卸数量	2,000 個	原価 @ ¥120
実地棚卸数量	1,350 個	正味売却価額 @ ¥110
		正味売却価額 @ ¥130

$$\text{個数の減少} = \text{棚卸減耗損} \quad 2,000 \text{ 個} \rightarrow (1,350 \text{ 個} + 530 \text{ 個}) \Rightarrow 120 \text{ 個} \times @ ¥120 = 14,400$$

$$\text{価格の減少} = \text{商品評価損} \quad \text{原価} ¥120 \rightarrow \text{売価} ¥110 \Rightarrow \Delta ¥10 \times 1,350 \text{ 個} = 13,500$$

売価の値上がりは評価しません(無視します)。買った値段より高く売れるのは普通のことだからです。

仕入	280,000	繰越商品	280,000
繰越商品	240,000	仕入	240,000
棚卸減耗損	14,400	繰越商品	27,900
商品評価損	13,500		
仕入	13,500	商品評価損	13,500

棚卸減耗損は独立の科目 → 販売費および一般管理費に表示

商品評価損は売上原価の内訳科目 → 売上原価に表示

3. 有価証券の内訳は次のとおりである。

	保有目的	帳簿価額	時価
甲社株式	売買目的	¥200,000	¥180,000
乙社社債	売買目的	¥183,000	¥190,000
丙社社債	満期保有目的	¥940,000	¥945,000

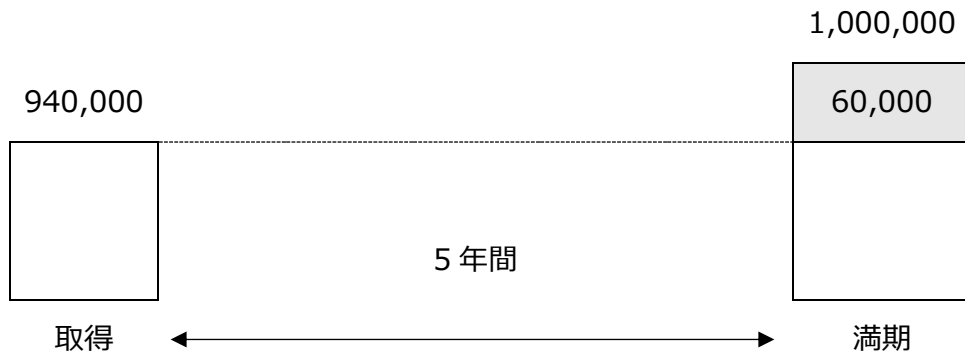
売買目的有価証券の評価は時価法とする。また丙社社債は当期首に丙社が発行したと同時に取得したものであり、償却原価法(定額法)により評価すること(額面総額 ¥1,000,000、償還期間 5 年、年利率 2%、利払日は 3 月末の年 1 回)。

甲社株式・乙社社債はどちらも『売買目的』なので区別しなくて OK です。

簿価 (200,000 + 183,000) ➡ 時価 (180,000 + 190,000) 評価損 13,000

有価証券評価損	13,000	売買目的有価証券	13,000
---------	--------	----------	--------

丙社社債の償却原価法



5年間で 60,000 増えるので、1年あたりは、 $60,000 \div 5 \text{年} = 12,000$

満期保有目的債券	12,000	有価証券利息	12,000
----------	--------	--------	--------

年利率 2% は、問題文に指示がないので処理済と考えて、気にしなくてよいです。

仕訳するとしたら、 $1,000,000 \times 2\% = 20,000$  となり

現金預金	20,000	有価証券利息	20,000
------	--------	--------	--------

残高試算表に載っている有価証券利息 20,000 がコレのことです。= 処理済

4. 建物および備品の減価償却は次のとおりである。

建物：定額法、耐用年数 30 年、残存価額ゼロ

備品：定率法、償却率年 20%、残存価額ゼロ

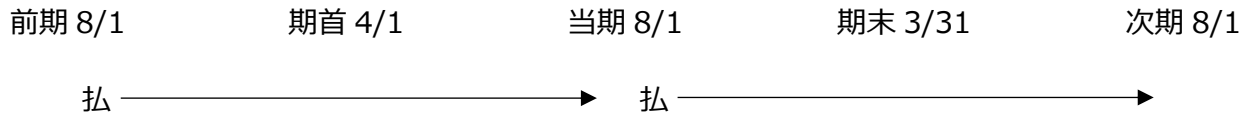
建物  $2,700,000 \div 30 = 90,000$

備品  $(600,000 - \text{累計額 } 216,000) \times 20\% = 76,800$

減価償却費	166,800	建物減価償却累計額	90,000
		備品減価償却累計額	76,800

5. 保険料は、毎年同額を 8 月 1 日に向こう 1 年分を支払っている。

『毎年』がポイントです。毎年ときたら、12 より長い。



仕訳で見ると

前期 8/1	保 険 料	12 か月分	現 金 預 金	12 か月分	
前期末 3/31	前払保険料	4 か月	保 険 料	4 か月	
期首 4/1	保 険 料	4 か月	前払保険料	4 か月	} 残高試算表の 保険料 360,000
当期 8/1	保 険 料	12 か月	現 金 預 金	12 か月	
当期末 3/31	前払保険料	4 か月	保 険 料	4 か月	← 今ここ

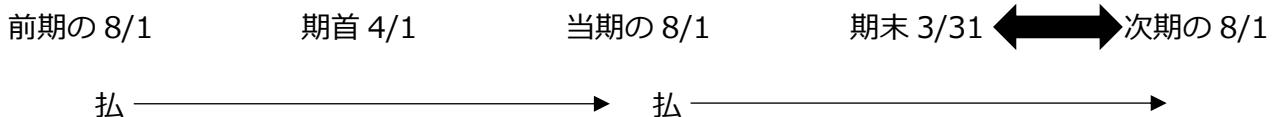
残高試算表の 360,000 は 4 か月 + 12 か月 = 16 カ月分です。

1 か月分は  $360,000 \div 16 = 22,500$  前払は 4 か月分なので  $22,500 \times 4 = 90,000$

前 払 保 険 料	90,000	保 険 料	90,000
-----------	--------	-------	--------

『毎年』のケースは月数が 12 より長くなりますが、長くなるのは、当期末から次期の支払いまで、

この問題では 4/1 から 7/末の 4 か月です。12 + 4 = 16 か月



6. 借入金に対して ¥11,250 の利息を未払利息として計上する。

未払利息 (負債)

支 払 利 息	11,250	未 払 利 息	11,250
---------	--------	---------	--------

7. 法人税、住民税及び事業税を税引前当期純利益の 30% 計上する。

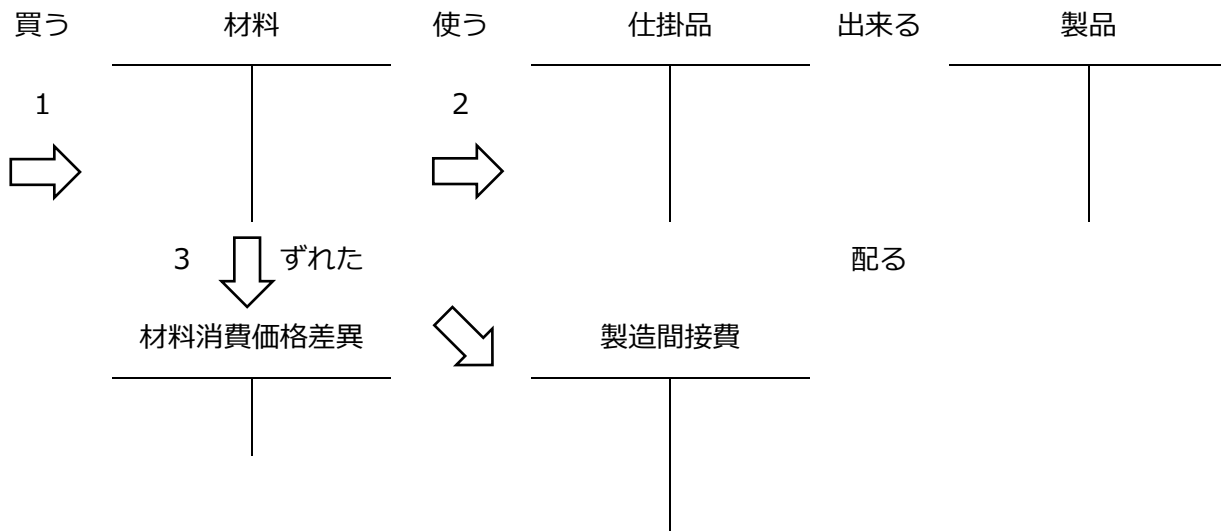
1 支 払 利 息	( ② 50,000 )	
2 (有 価 証 券 評 価 損)	( ② 13,000 )	( 63,000 )
税引前当期純利益		( 580,900 )
法人税、住民税及び事業税		( 174,270 )
当 期 純 利 益		( 406,630 )

} × 30%

第 4 問 (28 点)

(1) (12 点)

工業簿記の仕訳問題は勘定連絡図を覚えておくと楽です。今回は材料の問題でした。



1. 材料 3,600kgを 1kgあたり 602 円で**購入**し、代金は掛けとした。なお、材料の月初棚卸高は 400kg、1kgあたり 592 円であった。

**材料を『買う』仕訳です。**

材	料	2,167,200	買	掛	金	2,167,200
---	---	-----------	---	---	---	-----------

$$3,600 \text{ kg} \times @602 = 2,167,200$$

2. 当月において、材料 3,700kgを**消費**した。なお、3,300kgについては特定の製造指図書への出庫である。また、材料費の計算については、年間を通じて 600 円/kgの予定消費価格を用いている。

**材料を『使う』仕訳です。**

仕	掛	品	1,980,000	材	料	2,220,000
製	造	間	接	費		
			240,000			

$$3,700 \text{ kg} \left\{ \begin{array}{l} \text{特定 } 3,300 \text{ kg} \rightarrow \text{仕掛品} \\ \text{その他 } 400 \text{ kg} \rightarrow \text{製造間接費} \end{array} \right.$$

3. 当月の材料消費価格差異を計上する。なお、材料の実際消費価格の計算は平均法を用いており、棚卸減耗は生じていない。

**材料が『ずれた』仕訳です。**

平均法で単価を計算

$$\text{月初 } 400 \text{ kg} \times 592 \text{ 円} + \text{当期 } 3,600 \text{ kg} \times 602 \text{ 円} = 2,404,000$$

$$2,404,000 \div 4,000 \text{ kg} = 601 \text{ 円} \leftarrow \text{実際の消費額は } 601 \text{ 円} \times 3,700 = 2,223,700$$



予定は 600 円で計算して、2,220,000 と仕訳している。

予定は 2,220,000 で仕訳済み → 実際は 2,223,7000 消費している。この差額を仕訳します。

相手勘定は『材料消費価格差異』

予 定		材	料	2,220,000	予定
差 異	材料消費価格差異	3,700	材	料	3,700

} 実際

(2) (16 点)

個別原価計算 いくつかの製品を同時進行で作っている工場の、今月（6 月）の原価を集計します。

解答欄は仕掛品勘定と製品勘定です。仕掛品は『工場』、製品は『完成品倉庫』をイメージしてください。

		仕 掛 品		(単位：円)	
5/末の作りかけ→ 6月にかかった費用	前 月 繰 越	( )	製 品	( )	←6 月に完成
	材 料	( )	次 月 繰 越	( )	←6/末の作りかけ
	賃 金 給 料	( )			
	製 造 間 接 費	( )			
		( )		( )	

		製 品		(単位：円)	
5/末の在庫→	前 月 繰 越	( )	売 上 原 価	( )	←6 月に販売
6月に完成→	仕 掛 品	( )			
		( )		( )	

備考欄から『着手・完成・引渡』が何月かの図を書きます。(書かなくても解けます。)

図では、着手を○・完成を△・引渡を□としています。

	5 月	6 月	7 月
503	○△	□	
504	○	△□	
601		○△□	
602		○	△

着手○～完成△の間は『仕掛品』、完成△～引渡□の間は『製品』になります。

	5 月	6 月	7 月
503	○△	□	
504	○	△□	
601		○△□	
602		○	△

原価計算表の要約には直接材料費のみが載っています。労務費・製造間接費は、

労務費は 1,200 円×直接作業時間、製造間接費は 2,000 円×機械作業時間で計算します。

		材料費	労務費 1,200	製造間接費 2,000	合計	
503	5月	240,000	×230 h = 276,000	×300 h = 600,000	1,116,000	①
504	5月	300,000	×110 h = 132,000	×50 h = 100,000	532,000	②
	6月	—	×150 h = 180,000	×190 h = 380,000	560,000	③
601	6月	684,800	×420 h = 504,000	×500 h = 1,000,000	2,188,800	④
602	6月	377,200	×80 h = 96,000	×50 h = 100,000	573,200	⑤

A 1,062,000
B 780,000
C 1,480,000

解答のそれぞれに入るのは

		仕 掛 品		(単位：円)	
504	→	前月繰越	( ② )	製品	( ②+③+④ ) ← 504 601 △
		材料	( A )	次月繰越	( ⑤ ) ← 602
		賃金給料	( B )		
		製造間接費	( C )		
			( )		( )
		製 品		(単位：円)	
503	→	前月繰越	( ① )	売上原価	( ①+②+③+④ ) ← 503 504 601
△ 504 601	→	仕掛品	( ②+③+④ )		□
			( )		( )

第5問 (12点)

CVP分析の問題です。CVPは収益－費用＝利益を分析して、目標売上金額などを計算するやり方です。

収益－費用＝利益のうち、費用を変動費と固定費に分けます。

収益－(変動費＋固定費)＝利益

カッコを外すと

収益－変動費－固定費＝利益 これをタテに並べると →

- 収 益
- 変 動 費
- 固 定 費
- 利 益

資料 2 の原価内訳を、変動費と固定費にわけて集計します。

(水道光熱費は変動費と固定費に分けます)

変動費 1,800,000、固定費 1,980,000

問 1 変動費率は売上高にしめる変動費の割合です。

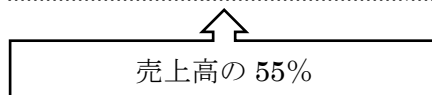
売上高 4,000,000	変動費 1,800,000	←この割合 $1,800,000 \div 4,000,000 = 45\%$
	固定費 1,980,000	
	利益 220,000	

問 2 損益分岐点売上高とは、赤字でもなく黒字でもないプラスマイナスゼロの売上高の金額です。

売上高 ?	変動費 45%	売上高の 45%
	固定費 1,980,000	固定費は変化しない
	利益 0	

横に書くと  $\text{売上高} - \text{売上高の } 45\% \text{ (変動費)} - 1,980,000 \text{ (固定費)} = 0 \text{ (利益)}$

式の前半部分に注目  $\text{売上高} - \text{売上高の } 45\% \text{ (変動費)} - 1,980,000 \text{ (固定費)} = 0 \text{ (利益)}$



売上高の 55% - 1,980,000 (固定費) = 0 ということです。

売上高を X とおくと  $55\%X - 1,980,000 = 0 \quad X = 3,600,000$

問 3 目標利益が 275,000 円

売上高 ?	変動費 45%
	固定費 1,980,000
	利益 275,000

横に書くと  $\text{売上高} - \text{売上高の } 45\% \text{ (変動費)} - 1,980,000 \text{ (固定費)} = 275,000 \text{ (利益)}$

売上高を X とすると  $55\%X - 1,980,000 = 275,000 \quad X = 4,100,000$